

火事場提灯

資料提供・文 國枝 浩



火事場提灯

7年前に家を建て替えるまで、昔から勝手居間の鴨居かまいに、三つ並んで掛かっていた物で、別に邪魔にもならず、一度も下ろした事もなく、特に気にもしなかつたので、何に使うのか聞かずじまいで、そのまま他の額などと一緒に、文字通りお蔵入りをしていました。

最近片付け中に、生まれて始めて開けて見たら、提灯が入っていました。

そう云えば、子どもの頃「あれって何？」と聞いたら「火事の時の物」とだけ言われた様な気がします。

池田消防組が各区に出来たのは、明治中期から大正にかけてで、その頃村の小使い役を仰せつかっていたので、火事場で消火がし易い様、現場付近で人員整理やら、応援して下さった他区の消防組さんへ、挨拶するなどに、使っていたのかなと思います。

よく使った様で、底に蠟燭ろうそくの溶けたのが溜たまっています。もし消防関係の

資料になるのなら、寄付させて頂きま

す。
ちなみに箱は、縦33cm、横34・5cm、奥行13・5cmで、杉板製、表は渋紙が貼ってあります。



提灯が納めてある箱

協力 郷土史の会